聖書の物語と私たち　7
ヨセフ　その2

司祭パウロ鈴木伸明

2年後のことです。エジプトの王ファラオは夢を見ました。それは『ナイル川のほとりに立っていると、突然、つややかな、よく肥えた七頭の雌牛が川から上がって来て、葦辺で草を食べ始めた。すると、その後から、今度は醜い、やせ細った七頭の雌牛が川から上がって来て、岸辺にいる雌牛のそばに立った。そして、醜い、やせ細った雌牛が、つややかな、よく肥えた七頭の雌牛を食い尽くした』（41章1節から4節）、『太って、よく実った七つの穂が、一本の茎から出て来た。すると、その後から、実が入っていない、東風で干からびた七つの穂が生えてきて、実の入っていない穂が、太って、実の入った七つの穂をのみ込んでしまった』（41章5節から7節）、というものでした。

この夢の意味について、エジプト中の魔術師と賢者がすべて集められ、その夢の意味の解き明かしを命じられたのですが、誰も解き明かすことは出来ませんでした。

その時例の給仕役がようやくヨセフのことを思い出し、ファラオにヨセフのことを申し出たところ、早速ヨセフは王の前に連れてこられました。ヨセフは自分ではなく、神がファラオの幸いについて告げられると言いながら見事その意味を解き明かしました。それはエジプト中に今後7年の豊作があった後、7年の飢饉におそわれるというものでした。ヨセフはそれだけでなく、飢饉を乗りきる提案をファラオにします。

画　中塚　梢

『このような次第ですから、ファラオは今すぐ、聡明で知恵のある人物をお見つけになって、エジプトの国を治めさせ、また国中に監督官をお立てになり、豊作の七年の間、エジプトの国の産物の五分の一を徴収なさいますように。このようにして、これから訪れる豊年の間に食料をできるかぎり集めさせ、町々の食糧となる穀物をファラオの管理の下に蓄え、保管させるのです。そうすれば、その食糧がエジプトの国を襲う七年の飢饉に対する国の備蓄となり、飢饉によって国が滅びることはないでしょう。』（41章33節から36節）

ヨセフはその場で宮廷の責任者とされ、ツァフェナト・パネアという別名を与えられて、エジプトをおそう困難に立ち向かうことになりました。ヨセフはこの時30歳でしたが、兄たちに売られてすでに13年が過ぎていたことになります。はたしてヨセフが言ったとおりヨセフの故郷であるカナンにもおよびました。ヤコブ（イスラエル）はエジプトに食糧があることを知り、買うために兄たちをエジプトへ行かせました。

兄たちはエジプトへ到着し、目の前にいる人がヨセフだとは気づかずひれ伏しました。こうしてヨセフがかつてみた自分の束に兄たちの束がひれ伏した夢が現実となったのです。ヨセフは兄たちだと一目でわかったものの、知らぬふりをして兄たちを回し者と言い、3日間牢獄に監禁しました。そしてシメオンを残して、穀物を持ち帰るよう言いました。さらに一番下の弟ベニヤミンを連れてくるように命じました。そう言いながらヨセフは、兄たちが持ってきた代金の銀はすべて戻していたのでした。

飢饉はますますはげしくなり、ヤコブ（イスラエル）は再びエジプトへ食糧を求めるため、兄たちを行かせます。ヤコブはベニヤミンを行かせたくはなかったのですが、ベニヤミンを連れて行くのが条件になっているとの兄たちの説得に応じ共に行かせることになりました。こうしてヨセフは弟ベニヤミンと再会することになったのです。

ヨセフはベニヤミンを見て『ヨセフは同じ母から生まれた弟ベニヤミンをじっと見つめて、「前に話していた末の弟はこれか」と尋ね、「わたしの子よ。神の恵みがお前にあるように」と言うと、ヨセフは急いで席を外した。弟懐かしさに胸が熱くなり、涙がこぼれそうになったからである。ヨセフは奥の部屋に入ると泣いた。やがて、顔を洗って出て来ると、ヨセフは平静を装い、「さあ食事を出しなさい」と言いつけた』（43章29節から31節）

（川越キリスト教会牧師）